



大好き かたびら

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/katabira>

横浜市立帷子小学校
学校だよりNo.6 9月号
令和2年8月31日
横浜市保土ヶ谷区
川辺町65-1
Tel.045-335-5896

みんなが… みんなと… ひとりで

校長 齋藤 容二

短い夏休みの後再開された学校生活も、2週間が過ぎます。8月下旬からは給食が再開され、ここにも例年とは異なる学校の日常の生活が見られています。保護者・地域の皆様には変わらぬご理解ご協力をいただき、心より感謝申し上げます

感染拡大防止の対策のためにたくさんの制約、約束があり、さらに連日続く酷暑の中ですが、帷子小学校の児童のみなさんが頑張っていたいくつもの姿を紹介します。

- ・朝、登校して開門時間まで待つとき、正門前で1列に並んで待っていること（今は職員が言わなくてもできています）
- ・前に並んでいる人たちを追い抜こうとした下学年の子に、上学年の子が優しく教えていたこと
- ・身体計測のとき、保健室への往復を子どもだけで静かに、並んで行き来したことや、順番を静かに待っていたこと
- ・当番が給食室へ行き来するとき、他のクラスのことも思いやり、譲り合いながら行動していたこと
- ・給食のときにはしゃべらないことやマスクの着脱等、約束や時間を守り、安全な食事を心がけていること
- ・学習時、よく集中して課題に取り組んだり、積極的に発言したりしていること
- ・6年生が1年生の手伝いや助言を、丁寧に優しく行っていること
- ・休み時間には図書室や運動場で約束を守って過ごしていること

みんなが安心して安全に生活するための約束をよく理解し、努力し、落ち着いて生活する姿に感心させられる毎日です。

4月の学校だよりでも触れましたが、今年度、本校は創立百十周年の年であります。7月の第1回児童代表委員会では、クラスや委員会の代表児童が今年度1年間の活動テーマを話し、

「みんなでやればできる 帷子110周年」

と決まりました。そこには「ひとりで」よりも「みんなで」取り組むことの価値」が出されていました。期間は少し短くなってしまっていますが、これからの具体的な取組により、大きな力を生み出していくことを期待しています。

つい先日、仕事帰りに電車を降り、階段を上って改札を出たときに、とても残念な出来事を見かけました。

それは、改札を出たすぐのところ、白杖をついて歩いていた人に、後ろから歩いてきた人がぶつかったのです。なぜぶつかったのかと言えば、後ろから来た人はスマートフォンをずっと見ながら歩いていたからです。つまり、前や周りを見ないで歩いていたために、前を歩いていた白杖をもった人にも気付かずぶつかったのです。

みなさんは、このことをどのようにお考えになるでしょうか。

電車内から降りても、ホームや階段、改札の外でもずっと画面に見入っている人のな

んと多いことでしょう。「歩きスマホはやめましょう」と言われていても、もしかしたら「自分だけでなく、**みんなもやっているから**気にしない、悪くない」という考えが働いているのかもしれない。善悪の判断基準が、**みんなが…**という得体の知れないものに委ねられているようにも感じます。

大人だけでなく、子どもたちの日常の中でも似たようなことがいくつもあります。「**みんなが**やらないから私もやらない」「よくないことだけど、**みんなが**やっているから私もやってしまう」「**ひとりだと**、何か言われそうのでできない」等々。子どもたちは大人の行動や周りを見ながら考え、判断し、自分の行動につなげていきます。大人の言行不一致はすぐに見抜かれます。我々大人の責任はとても大きなものがあるのです。

これからも、子どもたちが **みんなとでも**、**だれとでも**、そして、**ひとりででも**、大切なことや正しいことを進んで行えるように、また、自分たちで決めたテーマが実現されるように、励ましながら一緒に取り組んでいきます。



相模鉄道 車内ポスターより（使用許諾済）